

櫛

岡山大学附属図書館報

OKAYAMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

NO. 20

1994
DECEMBER

CD-ROM サーバーシステムの導入と課題

東海安興

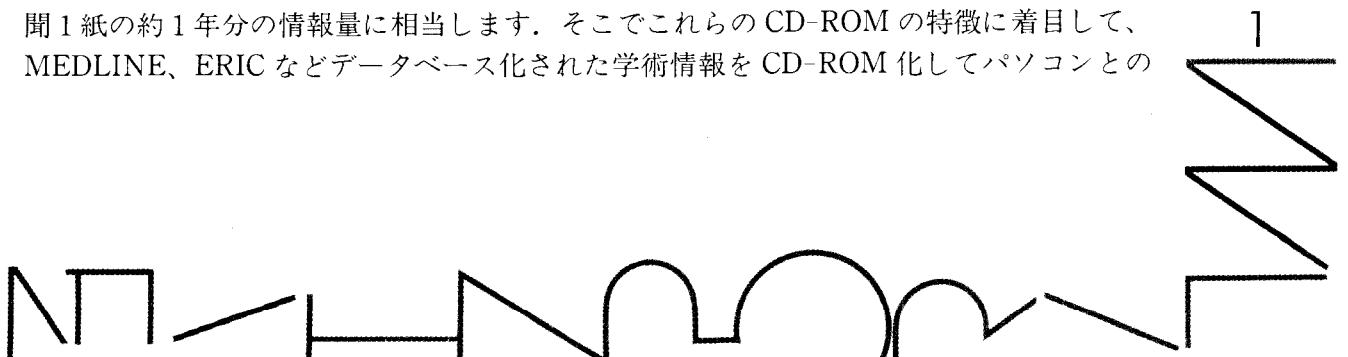
1 はじめに

毎年、本学では教育・研究の活性化を図るための特別経費の配分を行っています。これは学内の共通部局（図書館学生部など）からの要望事項のうち、大学として最優先の事業に取り組むためのものです。図書館でも平成5年度は「CD-ROM サーバーシステム」を要求し、承認されました。早速 CD-ROM サーバーシステム仕様策定委員会において、鋭意検討した結果、現行のシステムの採用となりました。その際に総合情報処理センターの川端研究開発室長に技術審査委員をお願いするとともに、学内 LAN に関連する多くの有益な助言をいただいています。

本年9月21日(水)、教官対象の第1回 CD-ROM サーバーシステム説明会を総合情報処理センターと共催で開催しましたところ、多数の参加者があり、関心と期待が大きいことを実感しました。

2 CD-ROM による学術情報サービスの経緯

まず、CD-ROM を簡単に紹介します。CD-ROM とは Compact Disk Read Only Memory の略称です。CD-ROM は音楽の CD を利用した大容量、高速処理が可能な読み出し専用の記録媒体であり、1枚の CD は600MB の記憶容量があります。これは全国有名新聞1紙の約1年分の情報量に相当します。そこでこれらの CD-ROM の特徴に着目して、MEDLINE、ERIC などデータベース化された学術情報を CD-ROM 化してパソコンとの



組み合わせで利用できるようになりました。

図書館でも学術用の CD-ROM が出現すると、平成 2 年度から中央図書館、鹿田分館においてスタンドアロン (パソコン単体方式) による、CD-ROM サービスの提供を開始しています。しかし、この方式はソフトパッケージを 1 枚ずつ入れ替えしなければならない不便さが指摘されており、特に鹿田分館では CD-ROM チェンジャーを付加して、その手間を解消しました。

3 CD-ROM サーバシステムの導入と今後の課題

研究室に居ながらにして、情報が入手できるという仕組みは研究者の強い要望です。既に学内外のオンライン情報検索でその利便性は異論のないところであり、CD-ROM による学術情報サービスでもその期待は当然であります。

そこで学内 LAN を経由して、研究室から CD-ROM が検索できるシステムを導入したのが、今回の CD-ROM サーバシステムです。他大学でもこの実現に向けて、積極的に導入しているという状況であり、本学でも時機を得た最優先事業として取り上げられた訳です。

このシステムの課題として、

- ①現行システムはネットワークソフトが NetWare であり、IPX という通信プロトコルを用いている。学内 LAN のプロトコルは TCP/IP であるため将来は UNIX 版への移行が望まれる。
- ②現在、10 台の同時アクセス能力であるが、確実に増加する利用者への対応をどうするか。またソフトの種類増加の要望への対応をどうするか。
- ③学内ネットワークの研究室末端までの整備と拡充が全学的に望まれる。

などが挙げられるようです。

4 最後に

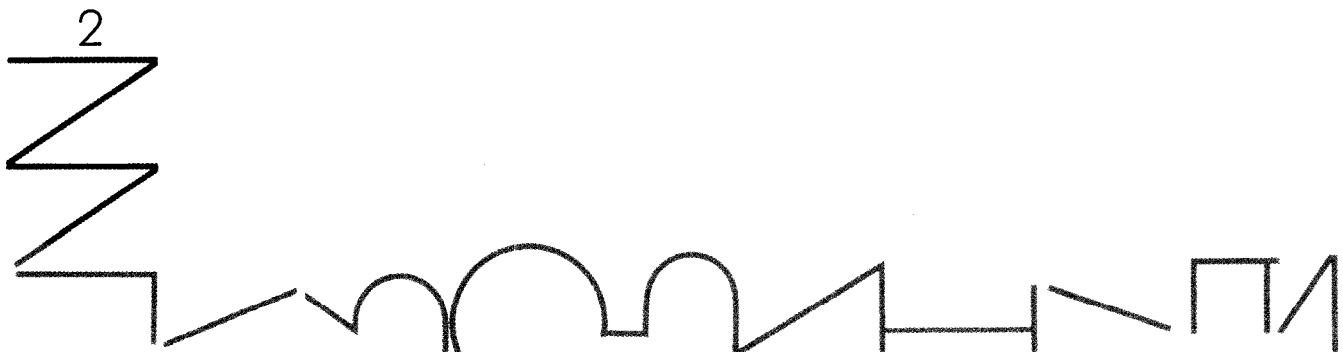
ネットワークを含めた技術の進歩はめざましいものがあり、その対応には人的パワー、財政的裏付けが必要であります。えてして追いつかない状況になりがちです。

図書館界においてもネットワークを経由して「インターネット」を通して、図書館情報サービスの提供にも利用されるような状況になってまいりました。

今後、本学としての情報に関する理念とポリシーが確立し、効率の良い「情報ハイウェイ」が敷かれた場合に、CD-ROM サーバシステムに端を発する図書館サービスのマルチメディア化と電子図書館化に向けて一層の拍車がかかるものと思われ。重ねて関係者各位のご理解とご支援を願うものであります。

末筆になりましたが、この件に関してご尽力いただきました、小坂学長、伊藤事務局長をはじめ、関係者の方々にこの誌上をお借りして、厚くお礼申し上げます。

(とうかい・やすおき 情報管理課長)



CD-ROM サーバーシステムの概要

システム管理係

岡山大学においても学内 LAN (OUnet) が平成 5 年度末に整備され平成 6 年度より稼働が始まりました。附属図書館 (以下「図書館」) でも、この学内 LAN を使用し情報を発信するため CD-ROM サーバーシステムを導入し、平成 6 年 10 月よりサービスを開始しました。

1 導入経過

CD-ROM サーバーシステムは平成 5 年度末に納入され、平成 6 年度から今までスタンドアロンで使用してきた 2 台から 5 台に検索端末を増やして図書館内で使用してきました。

OUnet への接続は通信プロトコルの違いもあり (OUnet のプロトコルは TCP/IP、図書館に導入された CD-ROM サーバーのネットワークソフトは NetWare でこれに使用されているプロトコルは IPX) ただちにという訳にはいきませんでした。

しかし、総合情報処理センターの協力により平成 6 年 7 月 5 日、6 日の両日各 FDDI (津島地区 研究 FDDI・図書 FDDI 鹿田地区 図書 FDDI) での接続テストを行い無事終了。9 月 21 日には利用者向けの説明会を、これも総合情報処理センターとの共催で開催 (出席者 41 人) しました。そして 10 月 3 日より本格稼働となりました。

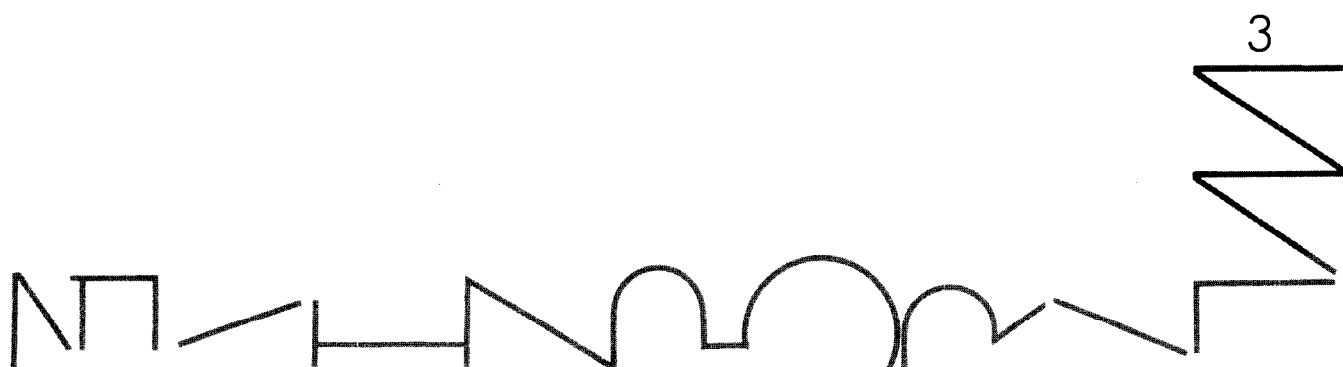
2 機器構成 (ハード)

ファイルサーバーは COMPAQ ProSignia モデル 486/66-1050 を、これに同じ COMPAQ 社のディスプレイ 1024 カラーモニター、TOYOCOM TCD-700 CD-ROM ユニット 2 機と小型無停電電源装置 (東芝 ECC1-U10010A) を接続したものです。これにより 14 枚の CD-ROM の情報を提供することが可能です。この他に、公衆回線用としてパソコン (DEC pc LPv 433DX) を 1 台用意しています。このファイルサーバーから HUB (8 ポート TOYOCOM MR800M) を経由して各図書館内の端末と接続し、またネットワークブリッジ (TOYOCOM NTB-300) を介して OUnet のトランシーバと接続しています。

図書館内検索用端末は以前からスタンドアロンで使用していた端末 2 台 (PC98, Sony Quarter-L) と既存端末 3 台 (Macintosh) にイーサネットボードを装着し、ツイストペアケーブルで接続されています。

3 機器構成 (ソフト)

現在このサーバーシステムには 4 種類の CD-ROM (計 12 枚) とファイルサーバーのハードディスクに CCOD (PC98 用) をインストールしてあります (ソフトに関しての詳しい説明は本号の「学内 LAN による CD-ROM の提供サービス」を参照してください。



4 利用形態

このサーバーシステムは OUnet に接続していれば原則的には24時間利用可能ですが、毎週月曜日の9時～13時の間は保守及び CD-ROM 交換作業等により休止します。また公衆回線での利用は17時より翌日の9時まで可能です（土曜・日曜・祝祭日は24時間 OK）。

同時接続数は10台までです（CCOD のみ3台まで）。公衆回線は1回線のみを確保してあります。但し、接続するためにはいくつかの条件があります。

(1) 接続可能端末

NEC/PC98シリーズ

IBM/PC-AT 及びその互換機

Apple Macintosh

(2) パソコン本体

メインメモリー640KB 以上で検索実行時にメモリーの空き容量が500KB 以上必要。

また、Macintosh においては検索実行時に2000KB の空き容量が必要です。

(3) 基本 OS

PC98 はMS-DOS Ver3.1以降

IBM 系はPC-DOS Ver5.0以降 PC-DOS Ver5.0J/V 以降

MS-DOS Ver6.2J/V 以降

Macintosh は漢字トーク Ver.6.0.7以降

以上の条件を満たすパソコンを持ち、LAN に接続するためのイーサネットボードが IPX または ODI ドライバをサポートしてあれば接続できます。

(4) 公衆回線

DEC VT100/200のエミュレータをサポートする通信ソフトウェアが必要です。またファイル転送には XMODEM プロトコルをサポートしていることが条件となります。

5 利用申請及び利用方法について

(1) 利用申請

図書館において CD-ROM サーバー利用要項を定めています。それに基づいて以下の物が必要となります。申請書は図書館に備え付けています。

① CD-ROM サーバー接続申請書

② CD-ROM サーバー用パスワード等登録・廃止・変更届

③フロッピーディスク

3.5インチ 2HD (PC-98は5インチも可)

システム付きでフォーマットしたもの

①、②に必要な事項を記入の上、3点を図書館2階の参考調査係に送付してください（公衆回線のみでの利用の場合はフロッピーディスクは必要ありません）。

(2) 利用方法

① 提出された申請書等により図書館で利用者コード及びパスワードの登録を行います。

そしてフロッピーディスクに必要情報をコピーして、利用承認書及びパスワード等設定通知書と共に返却します。



- ② 返却されたフロッピーディスクが接続・利用のためのマスターディスクとなりますが、各々所有のパソコン環境によりマスターディスクの内容の変更が必要となります。以下に代表的な例を掲げます。

(PC98の場合)

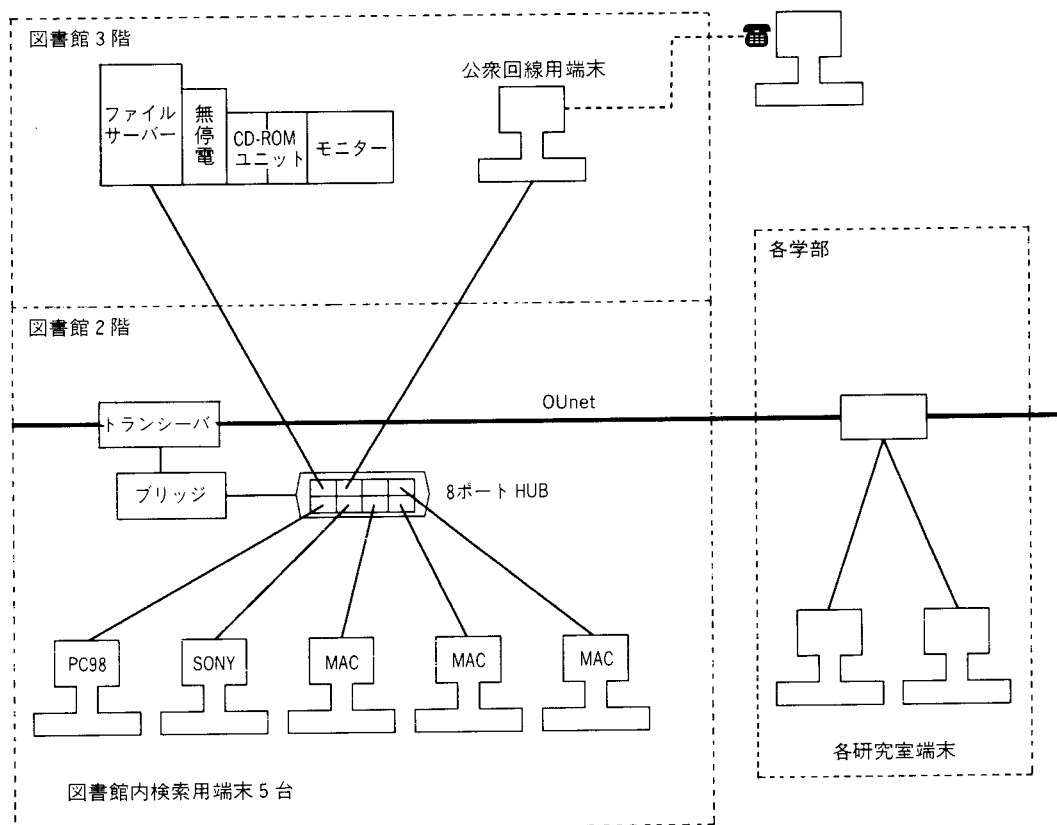
- ・使用するネットワークカードの設定値をマスターディスクの NET.CFG ファイルに記述します。
- ・使用するカードの ODI ドライバをディスクにコピーします。
- ・必要に応じてプリンタドライバ等を組み込みます。
- ・CONFIG.SYS の内容をそのパソコン環境に修正します。

(IBM/PC の場合)

- ・PC98とほぼ同じですが、この他に日本語用ドライバを組み込みます。

(Macintosh の場合)

- ・漢字 Talk システムディスクのインストーラを使用して Apple Share クライアントソフトと Ether Talk ソフトをインストールします。
- ・コントロールパネルのネットワークを開いて、Apple Talk Connection を Ether Talk に変更します。
- ・マスターディスク内の検索ソフトをインストールします。



サーバスシステムによる情報提供

(3) 接続方法

<PC98及び IBM/PC>

マスターディスクにより立ち上げて下さい。自動的にサーバーに接続し、利用者コードとパスワードを聞いてきます。入力後データベース選択画面となります。

<Macintosh>

Ether Talk への切り換えを行い、セレクトを開き、Apple Talk ゾーンから LIBRARY を選択し、CD SERVER をクリックします。

サーバーの CD-ROM データベースの一覧が略号で表示されますので、利用するボリュームをすべて選択します。デスクトップに CD-ROM が表示されます。

検索プログラムを起動させると、データベース一覧が表示されます。



2F 情報検索コーナー

(4) 終了方法

<PC98及び IBM/PC>

データベース選択画面にもどし、「Q」を入力しますと、終了し、自動的にサーバーから LOGOUT します。

<Macintosh>

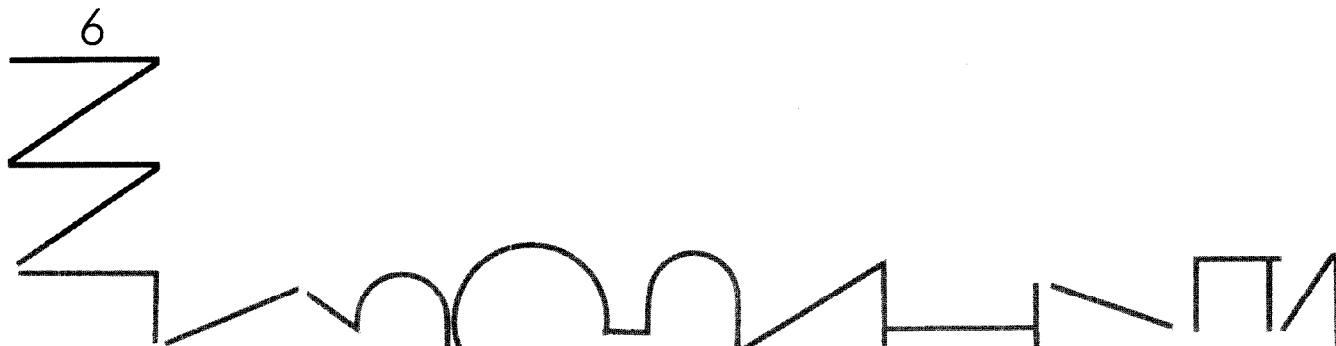
デスクトップ上の CD-ROM をすべてゴミ箱に捨てますと、サーバーから切り離されます。

(5) 公衆回線での接続と終了

通信ソフトを起動させます。接続後、端末の型 26番 VT100/200を選択します。

DOS プロンプト上で CDSERVER と入力します。これによりサーバーと接続しますので、利用者コードを入力します。

回線切断は AWLOGOFF と入力してください。



学内 LAN による CD-ROM の提供サービス

参考調査係

この度、学内 LAN の整備と、図書館の CD-ROM サーバー設置に伴い、図書館に備え付けの CD-ROM が、研究室からも利用できることになりました。

学内 LAN は大学内の端末機を光ファイバーケーブル等でつないだネットワークのことで学内の離れた場所の端末機相互で情報のやりとりができます。また、CD-ROM サーバーは 1 枚の CD-ROM を同時に複数の端末機から利用できるようにする装置です。

これまでは図書館内のみでの利用でしたが、これからは研究室の端末機が学内 LAN に接続していれば、研究室からも同様に検索することができます。また、CD-ROM サーバーは原則として 24 時間フルサービスなので、夜間や図書館の休館日の利用も可能です。

現在、当館で提供できる 5 種類のソフトと、使用できる機種を下記の一覧表に示しました。この 5 種類はいずれも論文レベルの検索ができます。情報源のほとんどは雑誌論文ですが、その他図書やレポート、研究報告書、会議録などの資料も幅広く含んでいます。検索できる年度や分野などは種類によって異なります。各レコードには原文そのものは含まれませんが、論文タイトル・著者名・掲載雑誌などの書誌情報に、英語のキーワードが付与され、大部分に抄録がついているので、おおよその内容を知ることができます。(ただし、MLA と CCOD には抄録は付いていません。)

なお、検索した論文の原文を手に入れたい場合は、まず OPAC (オンライン目録) やカード目録で岡山大学に掲載雑誌あるいは図書があるかどうかを探します。もし学内になれば他機関から取り寄せるサービスを行っています。資料の取り寄せについては、参考調査係 (2F カウンター 内線 7324) または相互利用係 (1F 複写カウンター 内線 7325) にお問い合わせください。

また検索方法については、お気軽に参考調査係までお問い合わせください。

利用可能なデータベース一覧

データベースの種類	収録範囲	収録雑誌数	収録件数	更新	分野	機種
MEDLINE PsycLIT ERIC MLA	1988- 1974- 1966- 1981-	約3,400誌 約1,300誌 約750誌 約3,000誌	約37万件/年間 約5万件/年間 約3万件/年間 約4万件/年間	毎月 年4回 " "	医学 心理学 教育学 文学・語学	・IBM系 ・NEC ・Mac いずれも可
CCOD ・Life Sciences ・Agriculture, Biology & Environmental Sciences ・Physical, Chemical & Earth Science	1994, 10-	1,230誌 930誌 820誌	約6,900件/週 約2,100件/週 約4,400件/週	毎週	生命科学 農学 生物学 環境科学 物理学 化学 地学	NECのみ

検索の実際

検索はいくつかのキーワードの組み合わせや、複数の項目による絞り込みなどにより、複雑な検索も可能です。以下に実際の検索例をあげて説明していきます。

例) イギリス女流作家ヴァージニア・ウルフ (Woolf, Virginia) の『燈台へ』 (“To the Lighthouse”) という作品についての論文で、最近5年間に英文で発表されたものを探したい。

- 利用するデータベース MLA
- ・検索入力の仕方

No.	Records	Request
(集合番号)	(ヒット件数)	(入力したキーワード)
#1:	1106	WOOLF-VIRGINIA
#2:	140	TO-THE-LIGHTHOUSE
#3:	140	#1 and #2 ← ①
#4:	306593	LA=ENGLISH
#5:	125	#3 and #4 ← ②
#6:	139822	PY>=1990
#7:	34	#5 and #6 ← ③

- ① 「Woolf, Virginia」と「To the Lighthouse」との両方を含むものを検索
- ② ①のなかから英語の文献だけを検索
- ③ さらに1990年以降のものに限定

・検索の結果

SilverPlatter 3.11 MLA Bibliography 1981 - 8/94 F10=Commands F1=Help

12 of 34
TI: In Her Father's House: To the Lighthouse as a Record of Virginia Woolf's Literary Patrimony
AU: Tremper, -Ellen
SO: Texas-Studies-in-Literature-and-Language, Austin, TX, 78712-1164 (TSL). 1992 Spring, 34:1, 1-40.
IS: ISSN 0040-4691
LA: English
PT: journal-article
PY: 1992
DE: English-literature; 1900-1999; Woolf, -Virginia; To-the-Lighthouse; novel-; role of patrimony-; in literary-tradition; treatment of female-male-relations; relationship to creativity-; biographical-approach
UD: 9206
AN: 92-1-4714
13 of 34
TI: Virginia Woolf's Poetic Imagination: Patterns of Light and Darkness in To The Lighthouse

MENU: Mark Record Select Search Term Options Find Print Download

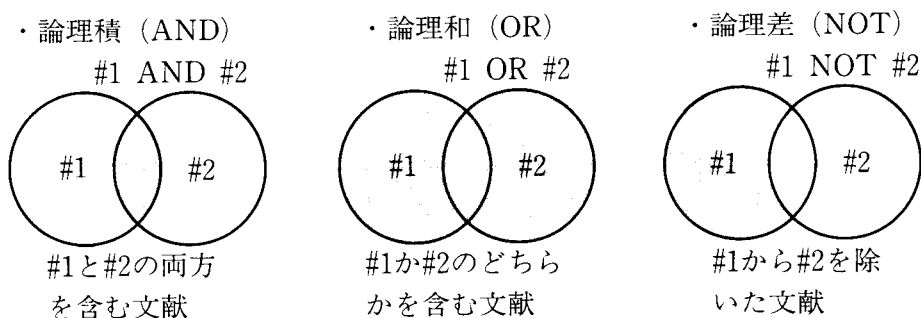
TI: 論文タイトル AU: 著者名 SO: 雑誌名 IS: 雑誌番号 LA: 言語
 PT: 資料形態 PY: 発行年 DE: ディスクリプタ (統制語)



複雑な検索のために

●論理演算の活用

演算子による検索語、検索集合の組み合わせにより、複雑な検索ができます。主な演算子の論理関係を図を表すと、下図のようになります。



●シソーラスを使って効率の良い検索を

〈統制語とは〉

特定のテーマに関する文献を検索するには、キーワードによって検索を行います。しかし、同じ概念のテーマであっても、人によって表すキーワードが異なる場合がありますので、思い付いた言葉による検索だけでは、必要な情報をもらってしまう可能性が出てきます。もし、データベース作成段階で付与するキーワードに統制を加え、ある概念のテーマに対してキーワードを1つだけ決めておけば、そのキーワードを使うことにより、同義語や類義語による検索のもれは防ぐことができます。

このため、データベースにはそれぞれ統制語が定められています。この統制語を MeSH (MEDLINE)、または Descriptor (PsycLIT・ERIC・MLA) と呼んでいます。

〈シソーラスとは〉

様々なキーワード (統制語、同義語) がアルファベット順に並べられ、思い付いた言葉から統制語が探せるようにした、辞書のようなものです。また、統制語には階層関係が設けられており、より適切な統制語を見つけられるように工夫がなされています。

〈CD-ROM でのシソーラスの利用〉

CD-ROM にはシソーラスの機能が付いており、検索するとき参考にすることができます。(ただし、Mac 版では MEDLINE 以外は利用できません。)

- (1) コマンドから“Thesaurus”を選びます。
- (2) 思い付いたキーワードを入力します。
- (3) 画面に一覧が表示されます。
- (4) もし「A use B」とあれば、A について検索したい場合は B というキーワードを使ってください。
- (5) さらに詳細画面を表示させ、上下関係にある統制語や関連語を見て、より適切なキーワードを探すこともできます。

データベースの内容

● MEDLINE

MEDLINEはアメリカ国立医学図書館(National Library of Medicine)が作成する世界的な医学文献データベースで、医学・薬学・歯学・看護学の分野をカバーします。

冊子体の索引誌“Index Medicus” “Index to Dental Literature” “International Nursing Index”に対応します。

● PsycLIT

PsycLITはアメリカ心理学会(American Psychological Association)の作成するデータベースで、心理学・精神医学・社会学・人類学などの分野をカバーします。

データベースは“Journal Article”と“Book Chapters & Books”の2つから構成されています。“Journal Article”は索引誌“Psychological Abstracts”に対応し、“Book Chapter & Books”は1987年以降に出版された心理学関連の図書の情報を収録しています。

● ERIC

ERICはアメリカの教育資源情報センター(Educational Resources Information Center)の作成する教育全般に関するデータベースです。このデータベースはRIE(Resources in Education)とCIJE(Current Index to Journals in Education)という2つの索引誌から構成されています。RIEは研究報告書、会議録、レポートなどの非雑誌論文を対象に収録しており、もう一方のCIJEは雑誌論文を対象に収録しています。

RIE(AN番号がEDで始まるもの)に収録されている資料の原文は、大部分がマイクロフィッシュ化されており、コピーが入手可能です。

● MLA

MLAはModern Language Associationが作成し発行する冊子体“MLA International Bibliography of Books and Articles on Modern Languages and Literatures”に対応します。欧米をはじめ、アジア、アフリカ、ラテンアメリカなど世界各地の文学・語学・民間伝承の分野をカバーします。情報源は75%が雑誌論文で、その他モノグラフや図書などの情報も含んでいます。また、文学については注釈、考証、書評なども含みます。

● CCOD (Current Contents on Diskette)

“Current Contents”は米国ISI(Institute for Scientific Information)社の発行する冊子体の索引誌で、CCODはこれをフロッピーディスクの形にしたものです。

“Current Contents”は各分野における主要雑誌および図書の目次を収録しています。雑誌と同時に発行され、週刊であることから、速報性が高く最新の論文を調べるのに便利です。一度に1週間分の目次の一覧、および検索ができます。



第7回国立大学図書館協議会シンポジウムについて

広報委員会

国立大学図書館協議会主催のシンポジウム(西地区)が、去る11月10日(木)と11日(金)の2日間にわたって、西日本地区の44大学の図書館関係者が参加して、本学の大学院自然科学研究科大会議室で開催されました。

今回のテーマは、「ネットワークと図書館情報 —利用者の期待にどのように応えるか—」ということで、永田治樹図書館情報大学助教授の基調報告(「次期電算化システム専門委員会第1年次報告について」)を基に、報告、討議が行われました。

1日目は、まず、基調報告がありました。ここでは、国立大学図書館協議会より今年5月に出された「次期電算化システム専門委員会第1年次報告」(以下「第1年次報告」)について、作成にあたった次期システム専門委員会の活動をはじめ、報告書に盛られた、これからの大学図書館と次期図書館システム、今後展開すべき情報サービス、次期業務システムに課せられたことなどについて報告がありました。

その後、サブテーマを「ネットワークを利用した図書館サービス及び業務」とし、ネットワークを利用した新しい情報サービスという観点から、徳島大学と長崎大学からマルチメディア情報やCD-ROM利用の先進的な実践例の報告がありました。

また、この日には、済賀宣昭学術情報センターシステム管理課長による「学術研究情報ネットワークの現状と新たな展開」と題した特別講演があり、学術情報センターが展開している最新の通信技術であるATM方式による新ネットワークシステムについてのお話がありました。

2日目は、サブテーマを「図書館情報システムのワークステーション化 —その展望と課題—」とし、主として業務システムの観点から、高知大学、大阪大学、九州大学の3大学からの報告がありました。今回の参加者の中には「学術情報」とか「システム管理」という肩書きの方々も数多く参加されており、業務システムの次期を考える上で差し迫った問題として関心を集めたようです。

最後に全体討議が行われ活発な質疑応答があり、ネットワークやコンピュータ技術に関する図書館員の関心の高さがうかがわれました。

今回のシンポジウムでは、各方面で情報環境の変化ということが言われました。それは「第1年次報告」のなかにも、ネットワークの発展、コンピュータ技術の進展、情報媒体の変化と情報リテラシーの向上ということでまとめてあります。

このような情報環境の変化を本学について見ますと、ネットワークについては、昨年度末に大規模な学内LANの見なおしが図られ、本格的なネットワーク基盤が整備されたところです。また、新しいコンピュータ技術についても図書館内で高性能なワークステーションやパソコンが扱える状況が出現しています。新しい情報媒体については、CD-ROM等の利用についてすでに長年の経験がありますが、学内LANを利用して、CD-ROMサーバーにより一部のデータベースのネットワークサービスを開始したところです。このような状況は、いわば、情報環境の大きな変化が本学図書館にも現実のものとなっており、今後の図書館システムのありかたにも新たな対応を迫られつつある状況といえます。



今回、すでに他大学で展開されているネットワークやコンピュータ技術を利用したさまざまな事例が紹介されましたが、本学図書館の次期図書館システムを考えていく上で参考になったと思います。また、「ネットワーク」がテーマということで技術的な議論も多くされましたが、副題にあるとおり「利用者の期待にどのように応えるか」という情報サービスの展開ということがクローズアップされていました。今後の本学図書館の情報サービスの展開が期待されます。



シンポジウム会場での報告

なお、各大学の報告内容及び報告者は次のとおりです。

「OPAC上に展開するマルチメディア情報サービスの試み」	徳島大学附属図書館	折原善彦
「UNIX版CD-ROMのネットワークによる検索システムの導入」	長崎大学附属図書館	喜多芳明
「XUIPを利用する電算システム更新について」	高知大学附属図書館	弘瀬高久
「電子計算機環境の変化と大学図書館」	大阪大学附属図書館	大西直樹
「オープンシステムへの移行に向けて」	九州大学附属図書館	濱崎修一





マスクット

中央図書館入退館システムが稼動を始めました

『楷』No.19で予告しておりましたが、9月1日(木)からの試行を経て、9月12日(月)から入退館システムの本格運用を開始しました。このシステムは、入館の際に図書貸出券の数字を読ませて、ゲートのロックを解除し、バーを押して入館する方式です。

図書貸出券をお持ちでない場合は、1階カウンターでリアルタイムで発行しております。

このシステムの導入により、手荷物の持ち込みが自由となりましたので、従来の1階ロッカールームを廃止し、そのあとは新聞コーナーになりました。なお、各階に若干の鍵なしのロッカーを配置しております。また、貸出手続きを経ないで資料を持ち出されますと警報が鳴り、ゲートが閉じますので、ご注意ください。

延長開館時間が変更されました

9月12日(月)から、月～金曜日の延長開館時間が、17時～21時に変更されました。水曜日は1時間短縮されましたが、月・火・木・金曜日は一時間の延長となりました。土・日曜日は従来どおり10時～16時です。書庫は水曜日のみ、20時30分まで開けております。

教官の方は閉館時間帯に自然科学系雑誌コーナーが利用できます

平成6年度第1回附属図書館運営委員会で「閉館時間帯における附属図書館中央館の利用について」(申し合せ)と利用心得が定められ、6月20日(月)から運用が開始されました。これは中央館の「庁舎管理要項」に定める警備保障システムに基づき実施されます。利用者は本学の教官とし、利用範囲は1階自然科学閲覧室内での閲覧及びゼロックスカードによる複写の利用に限られます。利用の申請手続は、所属学部等の代表者に申し出ていただくことになっています。

身障者エレベーターが稼動しています

8月29日(月)から、身障者用エレベーターの運用が開始されました。工事中にご迷惑をおかけしましたが、玄関ドアの拡張・玄関スロープの改修・1階トイレの改修とあいまって、身障者の方々の使い勝手がより改善されました。

資源生物科学研究所分館、『史料館』(通称)完成へ

『楷』No.19でお知らせしました史料館の新築工事は予定どおり進み、10月下旬に無事完成いたしました。鉄筋3階建て(延べ651㎡)で、1階は新着雑誌および貴重書展示コーナー、2階は集密書架に利用頻度の高い雑誌のバックナンバーを置き、3階にはワークステ



ーションが設置されます。

なお、図書・雑誌の配置換え、事務室の移転作業等を行うため学内ならびに学外の方の利用開始は平成7年1月以降になります。

史料館を今までよりさらに良いものにしていきたいと思ひます。

ご協力をよろしくお願ひします。

図書館オリエンテーション報告

附属図書館（中央館）では、4月に新入生オリエンテーションを、5月末から6月にかけてCD-ROMのガイダンスを下記のとおり行いました。

<新入生オリエンテーション>

日時：4月11日～22日

場所：図書館2階フロア

内容：1. Macintoshによる館内案内
2. 目録（オンライン、カード）
の説明

対象：新入生、他

参加：305名

回収したアンケートの感想をいくつかあげてみます。

<新入生オリエンテーション>

① Macintoshによる館内案内

- ・画面で見られるので分かりやすい
- ・モニター画面が大勢で見するには小さ過ぎる
- ・誰でも自由に使えるように開放されているのが良い

② 目録について

- ・目録を統一してほしい
- ・オンライン目録はとっつきにくい、慣れれば便利

<CD-ROMガイダンス>

- ・論文が速く探せて便利
- ・検索方法が複雑で慣れるのが大変
- ・検索の処理速度が遅い

実施した側の感想は、<新入生オリエンテーション>は305名の参加があったものの、全新生が2,500名以上ということを考え合わせればまだ少なく、もっとアピールする必要があると思っています。このことは参加上級生に「今回初めて検索方法がわかった」という意見が多かったことからもうかがえます。

一方「CD-ROMガイダンス」については、ゼミでの利用が多く、これからも教官の方のご協力をお願いしたいと思います。

「大学図書館の広報活動」ワークショップに参加して

去る、11月4日（金）に、「大学図書館の広報活動」をテーマにした講演とワークショップが東京学芸大学附属図書館で開催されました。

今回の特徴は、ワークショップで、図書館の利用案内に関する約30のブースが、各フロ



アに展示してあり、参加者が自由に見て回るという形式のものでした。私学の参加も多数あり、バラエティに富んだものとなりました。本学の利用案内システム「OLIVE」もこれに参加し、好評を得ました。図書館の利用案内といえば従来、冊子体のものを思い起こしがちだったのですが、新しいタイプの利用案内が数多く出品され注目を集めました。すなわち、ビデオによるもの、パソコンによるもの、インターネットによるもの、ポスターなどで各大学が、様々なメディアにより、様々な提供方法で利用案内に取り組んでいる様子がうかがわれました。本学の案内システムもさらなる飛躍が期待されます。

会議

◆学外

- | | | |
|-----------|------------------------------------|---|
| 4.18~4.19 | 第42回中国四国地区大学図書館協議会総会（於広島厚生年金会館） | （於伊豆長岡町総合会館） |
| | ・岡山県立大学の協議会加入について | ・平成6年度事業計画について、その他 |
| | ・情報環境の変化に対応した研修機会の拡充について、その他 | 10.12~10.13 |
| 4.19 | 第21回国立大学図書館協議会中国四国地区協議会（於広島厚生年金会館） | 平成6年度国立大学図書館協議会中国四国地区協議会係長会（於ホールサムインやまぐち） |
| | ・中国四国地区図書館職員の人事交流について、その他 | ・図書館利用指導の在り方について、その他 |
| 5.31 | 平成6年度国立大学附属図書館事務部長会議（於東京医科歯科大学） | 10.18~10.21 |
| | ・大学図書館の当面する諸問題について、その他 | 第35回中国四国地区大学図書館研究集会（於えひめ共済会館） |
| 6.13 | 岡山県図書館協会総会（於岡山県総合文化センター） | ・図書館サービスの在り方について、その他 |
| | ・平成6年度事業計画について、その他 | 11. 4 |
| 6.16 | 図書館シンポジウム（於武庫川女子大学） | 日本図書館協会大学図書館部会（於東京学芸大学） |
| | ・大学図書館の本質について、その他 | ・「大学図書館の広報活動」について、その他 |
| 6.23~6.24 | 第41回国立大学図書館協議会総会 | 11.10~11.11 |
| | | 第7回国立大学図書館協議会シンポジウム（於岡山大学） |
| | | ・「ネットワークと図書館情報」、その他 |

◆学内

- | | | | |
|------|---------------------------------|-------|------------------------------|
| 6. 3 | 平成6年度第1回附属図書館運営委員会 | 6.20 | 平成6年度第1回附属図書館広報委員会 |
| | ・平成6年度図書館資料購入費配当予算額（案）について | | ・平成6年度の活動方針について |
| | ・附属図書館中央館の夜間開館時間について | 6.20 | 平成6年度第1回AVインフォメーションシステム検討委員会 |
| | ・閉館時間帯における附属図書館中央館の利用について | 7.11 | 平成6年度第2回附属図書館広報委員会 |
| | ・附属図書館中央館施設の借用について | | ・館報「楷」No.20の編集について |
| | ・図書館資料整備について | 7.25 | 平成6年度第1回附属図書館資料選択委員会 |
| | ・教育・研究の活性化を図るための特別経費の要求について、その他 | 9.13 | 平成6年度第2回AVインフォメーションシステム検討委員会 |
| | | 10. 7 | 平成6年度第2回附属図書館資料選択委 |

- | | | | |
|-------|---|-------|---|
| | 員会 | 11.25 | 平成6年度第3回附属図書館広報委員会
・館報「楷」No.20の編集について、その他 |
| 10.18 | 平成6年度特別図書選定小委員会 | | |
| 10.18 | 平成6年度附属図書館中央館備付「全学共用図書」(人文・社会科学系)選定小委員会 | 11.28 | 平成6年度第1回池田家文庫等特殊文庫委員会
・平成6年度図書館特別業務経費による事業計画について、その他 |
| 10.18 | 平成6年度附属図書館中央館備付「全学共用図書」(自然科学系)選定小委員会 | | |

研修

- | | |
|---|---|
| ・平成6年度JOIS研修会
参加者 堤典子(6.27~6.29) | 奥田日実子 犬飼智美 佐藤純子
小林祥子(8.8~8.12) |
| ・平成6年度岡山大学事務系職員語学研修(英語・初級コース)
参加者 坂根祐介(7.11~8.12) | ・平成6年度図書館等職員著作権実務講習会
参加者 寺本智美(8.24~8.26) |
| ・平成6年度NACSIS-IR地域講習会
参加者 寺本智美 則武直美 花田貴子
藤田百合恵 谷口尚美 佐藤純子
中山栄美子 青井嘉子 黒原昌子
(8.4~8.5) | ・第14回人事院式監督者研修(JST)
参加者 中野美智子(8.30~9.2) |
| ・平成6年度目録システム地域講習会
参加者 寺本智美 渡壁辰巳 児玉有美子 | ・平成6年度岡山大学事務系職員語学研修(英語・中級コース)
参加者 中野美智子 坂井修一
(9.28~11.17) |
| | ・平成6年度国立学校事務電算化講習会
参加者 香川一郎(10.4~10.6) |

編集委員会から

今夏は、气象台始まって以来の高温、小雨を記録したところも少なくないようで、各地に多大な被害をもたらしました。ここ岡山においても産業全体への被害、さらに地域により長期間にわたり夜間断水が行われ、歴史に残る猛暑の年になりました。

さて、行政文書の判型を国際判であるA4判に統一することになり、これに伴い本誌の判型も本号からB5判をA4判に変更することになりました。

デザインをしていただいた清水先生(現岡山県立大学教授)は、実は9月9日に大学正門に完成した斬新なモニュメント「飛翔」の作者でもあります。好評であった従来のデザインを、さらにA4判に合ったデザインにと、この度も快くお引き受け下さり、21世紀を志向したすばらしいデザインの館報になりました。内容もデザインに負けないように頑張らなければと、思っているところです。また、文字の大きさも読みやすさを配慮し、少し大きくしました。

本号は、特集としてCD-ROM媒体の文献データベースをサーバーシステムにより学内LANを介して研究室から利用できるシステムについて掲載しましたが、これを契機に今後さらに有効な情報提供システムを構築しなければならないと考えています。一層のご支援をお願いします。

(委員長 香川一郎)

岡山大学附属図書館報「楷」 No.20 平成6年12月20日
 発行人 森岡祐二 編集 広報委員会 表紙デザイン・レイアウト 清水國夫
 岡山大学附属図書館発行 〒700 岡山市津島中三丁目1-1 電話086-252-1111